平成 27 年 12 月 17 日

武南高等学校進路通信　第６号

高校生活最後の定期考査が終わりました。いよいよ入試本番が近付いてきました。この冬休みから本番直前に失速しないよう，志望校合格を見据えて，気をひきしめていきましょう。特に１年生の時から努力し続けて伸び悩んでいる生徒は大きく変化するチャンスかもしれません。あきらめずにがんばり続けましょう。

今後の学習について

１．　理・社はまだまだ伸びる

早稲田文系をねらっていて，結果が出せなかった人たちからは，地歴・公民が間に合わなかったという声をよく聞きます。英語・国語も合否の鍵を握っていますが，浪人生と差が開きやすく，合否の決め手となるのは地歴・公民です。早稲田文系は，英語と地歴・公民で決まると言っても過言ではありませんが，早稲田の教授に聞くと国語が一番大切ですとおっしゃいます。つまり，３教科手を抜くなということでしょうか。

理系では理科が大切です。たとえば，東京理科大では多くの学科で，英語，数学，理科（1 科目）がそれぞれ 100 点満点で合計 300 点満点となっています。理科は数学，英語と同じウエイトなのです。数学科など 1 部を除き，他の大学も似たようなものです。冬季休業期間を利用して，弱点ポイントを補強していきましょう。

特に理科・社会はこれからも伸びます。焦らずに，わからなくなったら基本に戻って，問題演習に取り組んでいきましょう。もう 1 度教科書を読み直して，基本事項の整理をするのも効果的です。

２．　センター試験対策

センター試験まで約１ヶ月となりました。まず，やるべきことは過去問です。センター試験にはセンター独特の流れがあり，それを知るには過去問の取り組みがベストです。どの教科も５年分くらいは取り組みましょう。（新課程 2 年目ですので科目によって考え方はいろいろでしょうが。）ただし，センターの傾向は徐々に変化しています。その傾向を知るには，予想問題集（センターパック等）が役立ちます。センターでは短時間でいかに多くの問題を解くかが決め手となりますから，時間を測って，なるべく多くの問題に挑戦しましょう。もちろん，解いたあとの見直しも忘れずに！復習しきれる量にとりくむことも大切です。

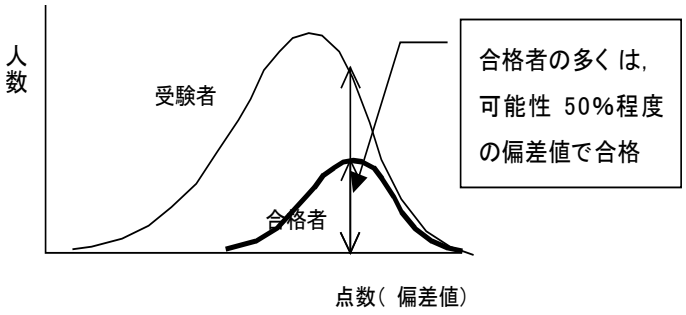
３．　個別試験（２次）対策

大学によって出題傾向は異なりますから，個別試験対策も過去問を徹底的に解くことが重要となります。そこで注意すべきは，大学入試では問題の全部が解ける必要はないということです。大学入試では誰も解けそうにない問題が出題されることが少なからずあります（特に私立大学）。どうせそんな問題はほとんどの受験生が解けないのですから，捨てればよいのです。大事なのは，どれが落としてはいけない問題かを判断することです。入試問題の８割は「基本＋その応用」で，難問はおよそ２割以下と言われています。大部分の問題は，基本事項の組み合わせで解けるようになっているのです。

また，論述式の問題が出される大学の対策としては，とにかく書くことです。そして書いたものが曖昧ならば先生に添削してもらうことが大切です。自分で書いたものを模範解答と照らし合わせて，自分１人で納得していても，独りよがりに陥る危険性が大きいということをよく理解しておいて下さい。

冬休み，センター対策と個別試験対策は、その人の学習到達度によりますが，センター：個別＝６：４の比率を目安にして，あとは各自で決めていって下さい。（武南の生徒は個人によりかなり差があると思います。）センター対策を２次対策にしてしまう一石二鳥の方法もあります。数学でいうと、センターの対策問題を答えが合っただけで終わらすのではなく、意識的にしっかりと記述で解答するのです。中堅大学ではセンターレベルの問題が記述式で出されますので，この方法も検討してみてください。

確率はうそをつかない！？



大学入試では，私大は何校も併願できます。C判定は合格可能性40～60%です。約半分の合格可能性があるので，併願すればどれかに合格する確率はとても高くなります。特に，競争率の高い私大入試では，合格者の多くがC判定程度での合格者です。DやE判定でさえ，合格した人はいます（合格可能性20%は，ゼロではないのです）。また，国立後期は欠席者も多く，倍率はみかけの半分くらいです。最後まで粘った人の合格可能性は高くなります。国立後期は学力もさることながら，気力の勝負ともいえます。ただし現役合格をめざすなら，希望のレベル校だけでなく必ず安全校を考えてください。また，どうしても国立大学へという人は，チャンスは最大でも前期後期の２回しかありませんから，第１志望の選択は慎重にしてください。（センター試験の翌日に学校に来て結果を報告する。そして，国公立受験校の相談をすることです。）

同じ努力で最大の効果が得られる学習法

入試直前には直前なりの受験対策上の学び方があります。

まずは，弱点部分の補強です。ある分野で大量に失点すると，なかなか挽回できません。すでにわかっていたり，覚えたものを何度も繰り返すよりも，理解が不十分だったり，記憶があやしいものを覚えると効果的です。そのためには，新しい問題集に手を出すよりも，今までやった問題集や模試で解けなかったものをやり直してください。英語を例にとると，仮定法が不得意なら，１週間くらい集中して仮定法の問題を見直すなどの工夫が必要です。数学の数列が不得意なら１日１０時間くらい集中して取り込むことです。

次に，出題頻度の高いもので，理解や記憶が不十分なものを優先します。すべてをマスターすることができない場合は，きわめて出題頻度の低いものは思い切ってあきらめるのも一つの方法です。（数学では，微積はもちろんのこと確率・ベクトル・数列が頻出です。新課程２年目の今年からは複素数平面の出題が増えていくはずです。）